

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100646		
法人名	医療法人イキイキ会		
事業所名	グループホーム自悠のいえ		
所在地	岡山県岡山市北区原1241		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=3390100646-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成24年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

悠々自適にゆったりとした家庭的雰囲気の中で過ごしてもらいたい利用者が一番心を痛めていることを常に頭に入れておこう。
「困った」と言えばしっかりと受けとめ「帰りたい」と言えば「そうだよ」と認め共感しあう心ある関わりをしていると、いつか通じ合えるに違いないと信じ毎日利用者とのんびり過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山あいの静かな場所にあり、事業所にいながら季節の変わり目を身近に感じることができる。中に入ると木目調で明るく、ゆったりとした空間が広がる。作り付け収納などのスペースも工夫されており、食卓、ソファ、掘りごたつ等利用者は、お気に入りの場所でのんびり過ごしている。利用者ひとりひとりのペースと気持ちを大切に考え、起床や朝食など決まった時間を設定せず、それぞれが好きな時間に支援しており、家庭の延長の様な暮らしを実現している。
職員は絶えず利用者の様子や変化に気を配り、その人らしく暮らせるように援助しており、待ちの姿勢が素晴らしい。利用者のケアについて話し合い、情報を共有し連携した支援ができています。医療法人が経営しており、365日24時間対応してくれるので、本人や家族にとって安心して生活することができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えやすい位置に掲示し、常に話し合い共有している。	『悠々自適』という理念を玄関に掲示している。心のおもむくまま、ゆったりと日々をすごしてもらおう。新人職員には急がなくてもいいから、利用者のペースを守ることを大切に考えて行動してほしいと指導している。また、会議の際に理念に戻って考えるよう話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児たちが、訪問してくれ楽しいひとときを過ごしている。	町内会に加入しているが、利用者が重度化しており、地域の祭り等への参加が難しくなっている。年1回、地元の保育園から慰問があり、歌や踊りを披露してくれており、恒例となっている。主治医が地域に根差した医療を目指しており、近隣との付き合いにも力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいた時に一緒に行事を行い楽しい一時を過ごしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ででた要望や、意見を共有し今後のサービスの向上につなげられるように努力している。	七夕会や敬老会などで家族が参加してくれる行事に合わせ、運営推進会議を年に4回実施している。そのため、5～6名の家族の参加がある。その他に民生委員・愛育委員・連合町内会長などが参加している。事業報告や地域の情報交換、災害対策などについて意見交換を行っている。地域の方に事業所を知ってもらいたい機会だと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの連絡をさせてもらっている。運営推進会議ではいろいろとアドバイスをいただいた。	地域包括支援センターを中心に連携しており、事業所の空き状況等も連絡している。岡山市の介護保険課には必要時には連絡、相談しているが、普段連絡することは少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ひとりひとりのケアについてしっかりと全職員で話し合い個々の問題に対して取り組んでいる。	利用者の支援について、身体拘束をしなくてもいい方法を職員で話し合い、実施している。玄関やテラスは施錠しておらず、自由に出入りすることができるため、複数の職員で見守りを行っている。夜間帯、転落防止の為、ベッド柵を2本することがあるが、事前に家族に説明し、同意を得てから行っている。身体拘束マニュアルも作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のケア会議の時に現状の見直しや意見交換を行い話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ている。実際に成年後見制度を利用している方がいられ身近なものとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な事や、疑問点を尋ね納得して頂けるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時に話したり意見を聞く。	利用者家族が面会に来た時などに話を聞いている。家族は、落ち着いて穏やかに過ごしてくれるのが一番と言われる。玄関に意見箱を置いているが遠慮があるのか、ほとんど入ることがない。家族がどんなことを望んでいるのか、事業所側としても知りたいと思っている。	家族から〇〇してほしいという要望があまり挙がってこない状況にあるとのこと。一人ひとりの利用者に対し、事業所が出来ることや本人望んでいる事など家族に提示し、意見を聞いてはどうだろうか。また、定期的に家族アンケートを実施し、意見を聞いてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケースカンファレンス時意見交換を行っている。	日頃から職員同士のコミュニケーションをしっかり行い、意見交換ができるよう心掛けている。また毎月のケースカンファレンスに主治医が参加することもあり、個々のケースについて検討できている。個人面談は定期的に行うのではなく、様子を見ながら行っている。一人ひとりの意見や提案を聞き、また管理者から指導を行う場合もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケース会議の時に話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々の職員が他の施設訪問や見学、その後職員に伝達している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活との違いを少なくしたり、たくさんの情報を確認しその時々に応じた相手となり対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者や家族の求めていることを把握しこれによってアセスメントを行い課題を明らかにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者主体の目標をたて、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をする中で出来る事は、一緒にしながら過ごす。(洗濯たみ・食事作り・掃除等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問でき居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれた場所など把握しておき以前に口にしていた事などが会話となり楽しい時代を思い出せるようにしている。	利用者の話しの中で出てくる町や人の名前を職員間で共有し、昔を思い出しながら会話できるよう努めている。自宅付近をドライブし、『あそこを曲がって』など利用者の言葉に耳を傾け、馴染みの場所へ出かけている。年賀状のやり取りなども支援しているが、重度化によりだんだん難しくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テラスに出て外気浴しながら談話(ティータイム)ソファで洗濯物たみ食事作りを一緒にする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわり、会話の中で思いが聞けるような声かけを行っている。また、そばに寄りそっている。	日常の会話の中から思いや意向を聞き、職員間で共有している。また、表情やしぐさからも本人の気持ちをくみ取るよう心掛けている。また、本人の気持ちの変化にもその都度対応し、本人本位の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には使い慣れた物などを持ち込んで安心して過ごせる場所になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者が見える位置にスタッフがいるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に対して担当、副担当を作り定期的にモニタリングを行っている。変化がある場合はその都度話し合っている。	利用者一人ひとりに担当と副担当を決め、より細やかな目配り、対応ができるようにしている。ケアプラン作成時には事前に家族に連絡し、意見を聞くようにしている。ケアプラン原案を作成後、主治医も参加するケースカンファレンスで話し合い、作成している。本人の状態に変化があったときは随時話しあい、変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。また、医師の指導・バイタルチェック等記録。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者にとってどうすることがいいのか話し合い試しその中から問題解決に近づけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	重度化してきている為、外出するのが難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人が母体のため緊急時に対応してもらえる。家族も入居者も安心して生活できている。	入所後にかかりつけ医を変更した利用者もあり、現在は全員、母体の病院がかかりつけ医となっている。毎日医師の訪問があり、利用者の体調の変化等を確認し、声をかけてくれている。365日24時間いつでも連絡、相談ができる体制があり、利用者の体調など主治医から家族に直接説明してくれる等、安心感がある。眼科など他科受診はできるだけ職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師に常に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師を通じて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と家族で話し合い進めている。ホームで出来る事を支援している。	今までに5～6名の方の看取り支援を行っている。家族の希望を尊重し、その都度、医師から家族へ説明し、話し合いをしている。終末期には家族が寝泊りすることもできるよう配慮している。職員もできるだけ最期まで看てあげたいという気持ちがあり、支援を行っている。また、職員のメンタル面のフォローや反省点など皆で話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	指示を仰ぎながら実践するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。また、運営推進会議では地域の方々に協力してもらおうと伝えている。	年2回、避難訓練を行っている。避難経路や緊急連絡など職員の動きについて細かく確認している。万が一、火災が発生した場合、電話連絡により協力してくれる近隣住民の方が決まっている。昨年11月、スプリンクラーを設置し、防災意識を高めている。	今後の災害対策として、地震や裏山の土砂崩れ等、事業所として考えられる災害に対して対策を検討して頂きたい。事業所の考えを会議にて家族や近隣住民に伝え、意見交換をしたり、消防署より指導を受けたりし、災害対策をより深めて頂くことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、間違っても本人が思っている現実を受け入れ不穏にならないようにしている。	居室の入り口にのれんを設置し、ひとりひとりのプライバシーを大切にしている。デリケートな利用者が多いので、話しかける時には大きな声にならないよう努めている。職員は自分が発する音で利用者が不穏にならないよう、スリッパの音などにも注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にするようにし、選択肢を提案しゆっくりと選ばれるのを待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者生活習慣に合わせて接している(一人ひとりのリズムに合わせる)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが保てるようにしている。自室に鏡、ブラシがある人もいる。スタッフが整えてあげたりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや一緒にホットプレートでできる料理を行っている。	利用者の隣で野菜の皮むきをしたり、目の前でホットプレートを使って焼きそば・ギョウザ・蒸し野菜など作ったりしている。利用者が料理の匂いをかいだり、味見やつまみ食いをしたりすることで、一緒に食事を楽しむことができる。気候のいい時にはテラスでおやつを楽しむこともある。以前は外食も出かけていたが、重度化により少なくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ずつの量、形態(ごはん、おかず、汁)など把握している。水分については水分摂取表に一人ずつ記入し1日分を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけし、食後は口腔ケアしている。義歯の方は夜間外し管理させていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入しその人の排泄パターンを把握するように努めている。また、様子(表情)等を見て声かけ、トイレ誘導したり定期的に声かけを行っている。	できるだけ利用者がトイレで排泄できるように支援している。入居前に便意、尿意がないという情報のあった方が、表情や腹をさするなどちょっとした動きを見て誘導し、トイレで排泄ができるようになることも多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物の工夫はしているが運動量も限られている状態。一人ひとり把握する為排便チェック表に記入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて入浴支援している。医師の指示のもとに。	週3回を基本に入浴支援をしている。自分で体が洗える方には手袋状のタオルで洗ってもらっている。入浴を嫌がる人には無理強いせず、本人の気持ちに合わせて支援している。また、心臓病など入浴が負担になる場合、医師と相談し、体調を見ながら体清拭なども取り入れている。	浴室に入りやすいように扉を外しているのでシャワーカーテンのようなものをつけると落ち着けるのではないのでしょうか。外した扉は物置などに片付けると、より脱衣場が広くなると思われます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々違って日中の活動も考慮しながら夜間気持ちよく眠れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように薬ケースにて個々に朝昼夕と管理している。服薬後の症状の変化にも気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何気ない話の中から何をしたいという思いを聞きとり出来る限り日常生活に取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により外出している。	家族の協力により外食や買い物など外出している方もおられる。コップ・箸などの日用品を買いに行く事もあるが、利用者が重度化してきており、外出の機会が減っている。天気の良い日にはテラスへ出たり、施設周辺を散歩したりするなど外にできる機会を作るよう心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの以来があれば所持し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思によりできる人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間に掘りごたつ風テーブルがあり足を出せる。腰かけることができる。ひなたぼっこをしたり会食できたりもする。テラスに出て体操、日光浴など楽しんでいる。	共有空間は広くゆったりとした作りになっていて落ち着ける。窓も大きく、光が入り明るい。テラスへの出入りが自由に出来るので、花に水をやったり、掃いたり、体操をしたり各々楽しんでいる。行事などの写真を職員がコメントを書き、掲示している。また、庭の草抜きなど利用者の家族が協力してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、食堂、和室、居室を利用し家庭的雰囲気の中でゆったりのんびりその時々の居場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を持ち込んだり写真など貼ったりして安心して過ごせる場所になっている。	和室5部屋、洋室4部屋が用意されており、大きな収納がある。扉には利用者の写真が貼ってあり、自分の部屋だと分かりやすい。自宅から年季の入ったタンス・座椅子・アルバムなど馴染みのあるものを持って来ている。家具の配置などは本人や家族と相談し、本人が落ち着くよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テラスに出て草取り、洗濯干し、時にはオープンテラスになって食事をすることもある。		